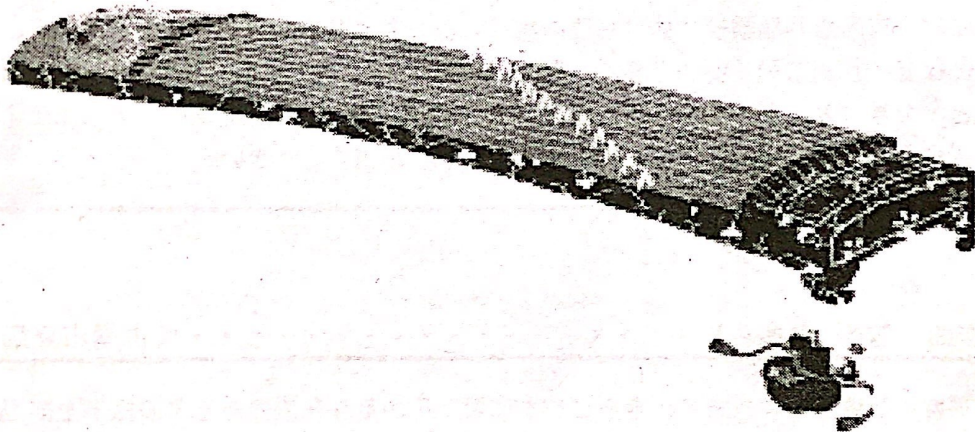


日本音楽部門 第33回発表会(県大会)

～ 箏 曲 ・ 能 楽 ～

曲 目 ・ 演 目 紹 介



- (1) 岩舟 (作者不詳) 名古屋市立名東高等学校

八大竜王が、帝の御代をたたえ、自らの守護する宝を献上する場面を演じます。竜王らしい緩急のある舞と、息の合った囃子が織りなす、爽やかな祝賀の曲をお楽しみいただければ幸いです。

- (2) RAIJIN (作曲 江戸 信吾) 愛知県立衣台高等学校

古来より火と水を司る五穀豊穡の神として人々に畏怖されてきた雷神。
この曲は、雷神の崇高で雄々しい姿を箏の音色で表現しています。
雨雲が近づきはじめ、遠雷からやがて激しく轟く稲妻へと変化するさまを想起させる演奏が魅力です。どうぞ楽しんでお聴きください。

(3) 風神&雷神 (作曲 吉崎 克彦) 藤ノ花女子高等学校

この曲は、風神と雷神を表現した箏と十七絃の二重奏です。温かく湿った風、冷たく乾いた風、強い風、弱い風など様々な風を繰る風神。黒々とした積乱雲とともに雷や豪雨を連れてくる雷神。二つの神様が何度も激しくぶつかり合い、凄まじい嵐が引き起こされる様子や、嵐が去ったあとの地上の様子、時折のぞく晴れ間の様子などが伝わるように、心を込めて演奏します。どうぞお聞きください。

(4) 箏と十七絃による三重奏曲 (作曲 藤井 凡大) 愛知県立一宮西高等学校

この曲は、力強いリズムの1章、ゆるやかな2章、風が吹き抜けるような3章から成り立った三重奏曲です。曲中にはさまざまな技法が出てきますが、特にスクイ爪が多く使われています。スクイ爪による繊細なリズムと楽章ごとの曲調の移り変わりをお楽しみください。

(5) 合奏曲六段 (作曲 八橋 検校 編曲 長沢 勝俊) 愛知県立豊田東高等学校

この曲は、有名な八橋検校作曲「六段の調べ」を合奏曲として編曲されたものです。後押しや引き色など、初めて弾く奏法も多く、難しさもありましたが、箏曲の伝統と新たな魅力を感じることができ、とてもやりがいがありました。主旋律に対する対旋律や、十七絃による低音のさまざまなメロディーやリズムの動きにも注目してお聴きください。

(6) 花舞 (作曲 牧野 由多可) 名古屋市立菊里高等学校

「花舞」は繚乱に咲き誇り、きらびやかに舞い広がる存在感のある花の様子を表現した曲です。時に激しく、時に儂く、また華やかに、花の見せる様々な表情を箏の音色や技法によって表していきます。

(7) 春の賦 (作曲 宮城 道雄) 愛知県立江南高等学校

この曲は、花咲く喜びや生命 (いのち) の輝きといった春の美しさを表現すると同時に、人生の春に至るまでの険しい試練、そしてそれを乗り越えた先にある人の世の楽しさを唄った曲です。

曲につけられた二部合唱の歌にも力を入れて練習してきました。会場の皆さんに様々な春の空気を感じていただけたらと思います。

(8) じょんがらの街 (作曲 野村 祐子) 菊華高等学校

本日演奏させて頂く曲は本来、箏・十七絃・津軽三味線の三重奏曲ですが、今回は地歌三味線を用い「じょんがら」のテクニックに挑戦致します。多種ある三味線の中でも、津軽三味線は迫力ある音色や厳しい寒さの中で伝え継がれてきた細かい撥さばきが特色です。津軽の情景やそこに住む人々の情熱を表現できるよう部員一同、心を一つに精一杯演奏させて頂きます。

(9) 炎 (作曲 水野 利彦) 愛知県立半田高等学校

この曲は炎を主題として作曲されました。真っ赤に燃え盛る炎と、時々姿をみせる妖美な炎がリズムを変えながらダイナミックに曲を展開していきます。リズムと曲のイメージを部員達と話し合いながら練習を重ねてきました。永久に燃える炎がさらに美しい炎になるよう演奏したいと思います。部活を続けていくにあたって協力して下さった大勢の方への感謝と、箏曲に会えた喜びを音に託して演奏します。

(10) PASSION ひとひらの桜によせて (作曲 水野 利彦) 修文女子高等学校

この曲は、ある歌集から選んだ桜の歌のイメージを音にして書き上げられた作品です。十七絃から始まるリズムカルなベースと、きれのある二箏の和音に、一箏のメロディーが乗り、徐々に勢いをつけていきます。桜が舞い散る華やかさと散りゆく寂しさが表現され、曲中には日本古謡「さくらさくら」の旋律がおり込まれています。現代的な感覚の中に日本的な情感が込められているところがこの曲の聴きどころとなっています。今まで練習してきた成果を發揮できるよう精一杯演奏します。お聞きください。

(11) 大河 (作曲 牧野 由多可) 愛知県立東海南高等学校

一滴の水から、悠久の時を流れゆく大河へと成長していく。滴り落ちる水、穏やかな川のせせらぎ、岩にぶつかり、舞い上がる霧のようなしぶき、渦巻く波のようなうねり、夕日の光を受けた宝石のようなきらめき、華やかで堂々とした流れ。大河は、自然とともに、様々な表情をみせる。曲全体に様々な技法が駆使されており、それぞれのパートの掛け合いを大切にしながら練習を重ねてきました。箏が大好きな思いと、聴いてくださる皆様への感謝の気持ちをこめて演奏させていただきます。

(12) OKOTO (作曲 沢井 比河流) 安城学園高等学校

第一楽章は、表のリズムと裏のリズムの2つのパートの組み合わせにより一つのメロディーが表現されています。第二楽章は、I 箏と II 箏による和音、ハーモニーによって進んでいきます。第三楽章は、両パートの合奏とフレーズの交換により曲の主題が構成されています。タイトルのOKOTOはイコール「お箏」であり楽器の箏に敬意を表し、また親しみをこめ、あえてローマ字が使われています。

(13) 残光の彼方へ (作曲 / 編曲 水川 寿也) 愛知県立鳴海高等学校

この曲は一箏・二箏・三箏・十七弦の4パートで演奏します。4パートある曲に挑戦するのは、私たちにとって初めてです。この曲は、軽快に歯切れ良く弾くところから始まりますが、途中からは疾走感あふれる曲調になっていきます。そして、最後はなめらかな感じになって終わるという、とても変化に富んだ作品です。どうぞお楽しみください。

(14) 箏のしらべ (編曲 長沢 勝俊) 光ヶ丘女子高等学校

この曲は、「さくら」「通りゃんせ」「江戸子守唄」の3曲をメドレー形式で楽しめるように編曲されたものです。

春の花の代表ともいべき「さくら」の華やかさ、歯切れの良さだけでなく、どことなく妖艶さを漂わせる「通りゃんせ」、日本の子守唄のルーツとも言われている「江戸子守唄」を第一箏、第二箏、十七絃による三重奏で表現しています。

曲を聴いてくださる皆様の郷愁を誘うような演奏をしたいと思います。

本日は、私たちの発表会 (県大会) にお越し下さいまして、ありがとうございました。

この発表会のために、私たち部員一同は日頃の練習の成果が発揮できるよう努力を重ねてまいりました。これからも伝統の音楽を楽しみながら、部活動に励んでゆきますので、変わらぬ御支援をお願いいたします。

